

1. 自己弁

ペニシリンG感受性〔MIC（最小発育阻止濃度） 0.1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 〕の
Streptococcus（連鎖球菌）

Rp1) ペニシリンG

2,400万（1,800万～3,000万）単位を点滴静注
6回に分割または持続投与 4週間

Rp2) ペニシリンG： を2週間

+ ゲンタシン 60 mg ないし 1 mg/kgを点滴静注
1日 2～3回 2週間

- ・高齢者や腎機能低下例ではRp1)を選択する
- ・自己弁感染で疣腫のサイズが5 mm以下であり、塞栓，心不全や大動脈弁閉鎖不全，伝導系異常を認めず，治療開始後1週間以内に解熱し，臨床的改善がきらかな症例では2週間でも十分な治療効果が得られるという